

専門委員会の進め方

第1回委員会(2月20日)

1. 気候変動を気候安全保障の問題としてハイライトしている事例

- COP12でのコフィ・アナン前国連事務総長によるステートメント(2006.11)
- COP12での若林環境大臣によるステートメント(2006.11)
- 英国ベケット外相による外交政策と気候安全保障に関するベルリンでのスピーチ(2006.10)
- アル・ゴア前副大統領の映画「不都合な真実」

2. IPCC第4次報告書の第1作業部会の評価報告書及びスターン・レビュー

- 今般のIPCC報告によると、温暖化が既に起こっていることを明らかにするとともに、人為起源の温室効果ガスの増加が温暖化の原因であるとほぼ断定。また、21世紀末には、平均気温が1.1℃から6.4℃上昇し、台風やハリケーンなどが強大化することなどを予測している。(**「影響」**については、第2作業部会が担当しており、4月にまとめられる予定。)
- 英国政府気候変動・開発における経済担当政府特別顧問であるニコラス・スターン博士(元世銀チーフエコノミスト)により、昨年10月末にまとめられたスターン・レビューにおいては、気候変動問題の緊急性を訴えつつ、経済的側面からの分析が行われており、世界的に注目を集めている。

3. 「環境安全保障」に関する考え方

- 米本委員からの発表

4. 議論

- 気候変動問題が安全保障問題として位置付けられ始めている現状についてどう考えるか。
- 安全保障問題として位置付けるに当たっての留意点は何か。



第2回委員会(3月中旬)

1. 従来型の安全保障論の特徴

- 「国家」の安全保障が中心。
 - ・国家の安全を脅かす危機＝軍事的脅威が第一義的
 - ・守るべき対象＝国家

概念の
拡大



危機: エネルギー・食糧・経済
対象: 世界・人類・国民生活

2. 気候変動問題を安全保障として位置づけるにあたっての要件

3. 気候変動問題を安全保障としてどのように位置づけるか

- 「人間安全保障」に関する検討事例

4. 議論

- 上記それぞれの項目について議論



第3回委員会(4月中旬)

報告書(案)の提示と議論(第1回及び第2回の議論の集約)